

体育科 授業改善推進プラン

1 観点ごとの児童の実態

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ○走る・跳ぶ・投げる等、基礎的な動きを身に付けてきている。 ○運動経験の少ない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○かけっこで真っすぐ走ったり、いろいろな方向に走ったりすることができる。 ○走る、転がる、支える、バランスをとるなど、基礎的な動きを身に付けてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育での活動全般において個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動経験の差から動きの幅に違いが見られる。 ○体づくり運動の中に体の動かし方を教師や友達からの助言・支援を重ねたりすることで、技が上達している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○きまりを守り、めあてをもって楽しく運動することができる。 ○運動経験の差から動きの幅に違いが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボール運動では状況に応じたパスやドリブル、シュートなどの基礎的な技能を身に付けてゲームに取り組むことができる。
思考力, 判断力, 表現力	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の動きを見て、良いところを見付けたり、まねしたりしている姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達のよい動きを取り入れたり、自分で工夫したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の振り返りを生かし、一人一人がめあてをもって運動に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の振り返りを生かして、一人一人がめあてをもって運動に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の動きとよい動きを見比べて、自分の課題を見付けそれに向けて学習を進めることができる。 ○友達同士で運動できていることやアドバイスを伝え合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のよい動きと見比べて自分の課題を見付け、それに向けて自分なりに練習方法を選んで学習を進めることができる。 ○自己の体力に応じた運動ができ、考えたことを他者と伝え合ったり、アドバイスし合ったりすることができる。
学びに向かう力, 人間性	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の好きな児童が多く、体育の学習を楽しみにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動が好きな児童が多く、進んで学習に取り組んでいる。 ○意欲的に活動し、友達同士で教え合おうとする姿勢が身に付いている。 ○用具の安全な準備や片付けを、友達と協力して行う児童が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動に対する意欲は高く、楽しんで運動している。 ○用具や器具の準備・片付けにおいて、進んで取り組んでいる。 ○きまりやルールを守り、友達と楽しく運動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動が好きな児童が多く、楽しんで運動している。 ○グループの友達に励ましの声を掛けたり、アドバイスをしたりして、協力して運動している。 ○勝ち負けにこだわり、運動本来の楽しさに目を向けられていない面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に運動に取り組んでいる児童が多い。 ○グループの友達に励ましの声を掛けたり、アドバイスをしたりして、協力して運動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に運動に取り組んでいる児童が多い。 ○安全に気を付けながら走り幅跳びやソフトバレーボールの道具を準備し、協力して運動に取り組むことができる。

2 課題と改善策、検証方法

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○走る・跳ぶ・投げる等の動きの学習が途上なため、児童たちの基礎的な運動能力で身に付いている点もあるが定着できていない点も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の基本となる動きに個人差が見られる。 ○運動経験に個人差があり、活動への意欲に差が出てしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の経験の不足を補う技能の定着が課題である。 ○動きや技のポイントを理解し、繰り返し練習することで、身に付けられる技能に差がある。 ○学習したことを生かして、継続的に生活の中で実践していくことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○走の運動に苦手意識をもっている児童が多い。 ○自分の課題を見つけ、解決しようと活動することを苦手に思っている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育の学習に意欲的に取り組んでいる。しかし、ボール運動の経験で技能に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○器械運動に対して苦手意識をもって学習に取り組む児童が多い。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○走る・跳ぶ・投げる・転がる・のぼる・おろる・バランスをとる等、様々な基礎的な動きを多く経験できるような学習を設定する。 ○スモールステップを踏み、できるようになる楽しさを多く味わうことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○夢中になって運動に取り組める場面を設定し、その中で様々な動きを経験できるようにする。 ○よい動きを共有する時間を効果的に取り入れ、やってみたい・まねしたいという気持ちを高め、よい動きを広めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動感覚を養う補助運動を授業の初めに取り入れ、主運動につなげていく。 ○動きの特性を理解できるように、運動ごとに意識するポイントを児童同士で確認する時間を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○走り方の助言や上達した点に注目し、声掛けをしていく。 ○教師や友達の助言を基に、課題を見つけ、改善するための手立てを考える時間を作る。 ○運動感覚を養う補助運動を授業の始めに取り入れ、主運動につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ポイントを視覚的に理解しやすいように工夫したり、スモールステップの段階を踏んで指導したりしていく。 ○児童と共に、ルールを工夫し、実態に応じ、楽しく運動できるようにする。 ○作戦の例を示したり、作戦を話し合う時間を確保したりすることで、一人一人が課題をもって、ゲームに取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の能力に応じて、適切なめあてを設定できるように、基準となる目標や動き、運動のポイント、スモールステップの段階を示していく。 ○技能を高められるように、主運動につながる様々な運動や基礎感覚作りを取り入れ、スモールステップで学べる運動の場を用意したりする。
検証方法	<ul style="list-style-type: none"> ○体育の授業の際に、行動観察して確認する。 ○学習カードをもとに、児童の学びを振り返り、確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育の授業の際に、グループ活動における声掛けやその反応等の行動を観察して確認する。 ○学習カードをもとに、児童の学びを振り返り、確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体育の授業の際に、行動観察をして確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習カードの振り返りをもとに、技が上達したか、上達した実感があるか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業前と授業後に学習カードを書く時間を確保し、めあてを意識したり、教師や友達のアドバイスを聞いたりしながら取り組んでいたかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○めあてや選んだ練習方法を書いた学習ノート、観察をもとに確認する。 ○単元の始めと終わりの技能の高まりを学習ノートや観察で確認する。